

## Topic ● 留学生紹介

現在、大学院研究生として坂戸キャンパスで学ぶテ ワン リンさん（「マレーシア国立大学（UKM）」学士(化学)2018年卒）から国際交流課にメッセージが届きました。リンさんの「味の素奨学金」申請時に提出した研究テーマは「循環器疾患のリスク要因について（マレーシアと日本の比較）」で、この4月からは大学院生として2023年3月まで修士課程で学びます。本来は昨年3月末に渡日予定でしたが、このコロナ禍で11月15日の来日となり、その入国時のことを含めて紹介します。

### ●母国を紹介してください

私は赤道のすぐ北に位置している国、マレーシアの出身です。マレーシアは西マレーシア（マレーシア半島）と東マレーシア（ボルネ



オ島)に分かれています。マレーシアはマレー人、中国人、インドネシア人、現地住民、ヨーロッパ系の人々が混ざり合った異なる文化と宗教のメルティングポット（人種のるつぼ）です。このような幅広い異なる文化のため、もしあなたが異文化の遺産や現地のさまざまな食事を味わいたいのであれば、マレーシアは天国のような国でしょう。私の地元のクランは首都クアラルンプールから1時間ほどの距離にあります。クランはマレーシアで一番ではありませんが、美しく、とても魅力のある街です。クラン人は街の名物バクテー（豚の骨付き肉のスープ）をととても誇りに思っています。ぜひクランにお越しの際には食べるといいです。



妹と弟に囲まれて（マレーシアにて）

### ●コロナ禍の渡航・入国はたいへんだったでしょう？

日本に来るまでの旅はまるでジェットコースターに乗ったようでした。先が見えない新型コロナウイルスの感染拡大のため、留学時期を遅らせなければならなくなったからです。渡航するためのたくさんの必要書類の作成と長時間の待機の結果、ようやく日本行きのフライトチケットを手にすることができました。

外国人にとって日本に入国するための義務は飛行機に搭乗する前の72時間以内にPCR検査を受け、陰性証明を手に入れることでした。このため飛行機に搭乗するまでの時間、非常にあわただしくなっていました。日本に無事到着してからも、隔離先のホテルに移動する前に、再度PCR検査を受けなければなりません。

日本到着後の2週間の隔離場所は成田のホテル日航で、そこでは毎日、日本の厚生労働省に体温を報告しなければなりません。実際のところ「隔離生活」は自分が当初考えていたよりも悪いものではありませんでした。毎日ホテルの部屋のドアのところに、お弁当が届くのです！ 私の部屋にお弁当を届けるホテルの方と交わすわずかな会話が毎日の中で最も楽しみなことになりました。運ばれてくるお弁当は見た目がとても可愛くて、食べるのがもったないくらいでした。日本のお弁当はとてもおいしくて、大好きです。でも本音を言うと、2週間毎日お弁当生活をした後しばらくはまたお弁当を食べたい！という気持ちにはなりません。



隔離期間に運ばれてきたお弁当

### ●なぜ日本を留学先に選んだのですか？

私は日本語と日本文化に興味をもってます。マレーシアにいる時はいつも、「どこか海外で、特に自分の言葉が通じない場所で大学院に行きたい」と思っていました。私は恥ずかしがりやなので、留学することで私自身が今いる楽な空間から飛び出し、自分自身の殻を破り、積極的に自律した人間になることができると信じていました。実は学部生時代に一度日本を訪れる機会があり、その経験が日本で大学院に行きたいという想いをより強くしました。数年前に日本に来た際、日本の地域社会に恋をしてしまったのです。日本人の人に対するていねいな態度や思いやりは世界のどこにもない魅力だと思います。

### ●その留学先が、なぜ女子栄養大学だったのですか？

私は留学するのであれば、あまり留学生のいない大学に行きたいと考えていました。日本に留学すると決めてからは、マレーシアでもできるだけ日本人と関わり、日本人からいろいろと学ぶようにしていました。女子栄養大学は栄養・健康専門の総合大学で、自分の学修意欲を必ず満たしてくれる場所だと思いました。女子栄養大学を留学先に選んだ時、大学の担当者がとてもフレンドリーで、かつ私の要望にも根気よく、すぐに対応してくれたので、「私はこの大学に歓迎されているのだ」と感じることができました。

全体として女子栄養大学は私を温かく迎えてくれるという印象を受けました。そして、今現在ここで学んでいることに後悔はありません。女子栄養大学で実りある年を過ごせることを楽しみにしています。

### ●将来の夢は？

留学後は保健産業で健康な食事や栄養の重要性を地域の人に広めていくようなキャリア形成をしていきたいと思っています。特に、高齢者のいる地域で食事や栄養の知識を駆使し、彼らの健康を増進させるようなことに貢献していきたいと思っています。

日本でも働く機会があれば、日本の企業で働いてみたいです。

### ●日本の学生や留学を考えている後輩へのメッセージは？

私の唯一のアドバイスは「もし千載一遇のチャンスがあれば、つかみ取れ！」です。異文化に心を開き、異文化から学び、そしてそれを許容し、自分の中の国際感覚を育て、磨いてほしいと思います。世界は限りなく大きく、そこに広がる空のように限りない。その無限なものに向かって広くチャレンジしてもらいたいです。



リンさんは最初、スーパーのレジで店員さんに話しかけられた時に何を言っているのか分からず戸惑っていましたが、今では相手は何を言いたいのか分かるようになったとか。今では毎日、研究室では日本人の修士学生と日本語で会話しています。また、聴講している緒方裕光教授（疫学・生物統計学研究室）の統計学の授業は、英語でも難解なのに日本語だとより難しいといいますが、分からないことはあとで先生と一緒に授業を受けている学生に聞いてがんばっています。